

1 題材名 「相手に分かるように伝えよう」

2 題材の目標

- ・相手を意識しながら、相手に分かるように話をするができる。
- ・相手の話を聞いて、自分は何が分からないのか、どうして分からないのか、どうすればよいかを考えることができる。

3 実態

	平均聴力 (装用値) d BHL	実態
A	右：* (*) 左：* (*)	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚を活用しており、口話を中心にコミュニケーションをとっているが、発音は全般的に不明瞭である。 ・様々なものに興味をもっており、知識もある。自分の興味のある話を始めると夢中になり、相手の様子に関わらず手話や指文字をつけなかったり、手話があいまいなまま話をしてしまったりするため、相手に伝わらないことが多い。 ・相手を見て話を聞く態度がまだ定着しておらず、視線がずれたり姿勢を崩したり最後まで聞かないで行動してしまうことがある。また話の途中で思ったことをすぐに口に出してしまう傾向がある。
B	右：* (*) 左：* (*)	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚を活用しているがまだ十分ではなく、手話、指文字、口話などを併用してコミュニケーションをとっている。発音は不明瞭である。 ・助詞等の間違いは多いが、日常的话题であればパターン化して大まかに話をするができる。自信がもてないときは小さめの声で、相手の顔を伺いながら、手話や言葉をあいまいにして話をする場合がある。 ・話し手に注目して聞こうとする態度は身に付いているが、語彙や知識が少なく、聞き逃していることや自分の思いこみで聞いていることも多いため、確認が必要である。
C	右：* (*) 左：* (*)	<ul style="list-style-type: none"> ・人工内耳装用で聴力はよいが、聴覚の活用はまだ十分ではないため、指文字、手話、口話などを併用してコミュニケーションをとっている。発音は比較的不明瞭で、拗音は音韻が合わないことがある。 ・助詞等の間違いはあるが、様々な話題について話をするができる。早口で指文字も早いため伝わらないこともあるが、相手に伝わっているかを気にしながら話をするようになりつつある。友達に対して指示的になってしまうことがある。 ・話し手に注目して、質問や感想を考えながら話を聞くことができる。
D	右：* (*) 左：* (*)	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚をよく活用しており、口話を中心にコミュニケーションをとっている。発音は比較的明瞭であるが、サ・ザ行音や自然なプロソディでの話し方に課題がある。 ・様々な話題をまとめて話をするができる。みんなの前で話をするときは、緊張して抑揚のない言い方になってしまうことがある。相手に伝わっているかを確認しながら話をするができる。 ・話し手に注目してよく話を聞くことができる。
E	右：* (*) 左：* (*)	<ul style="list-style-type: none"> ・人工内耳装用で聴力はよいが、聴覚の活用はまだ十分ではないため、手話、指文字、口話などを併用してコミュニケーションをとっている。発音に気をつけようという意識はあるが、強調しすぎて分かりづらいことがある。発音は不明瞭である。 ・助詞等の間違いはあるが、様々な話題について大まかに話をするができる。みんなの前で話をするときは、相手に伝わっているかを気にしたり、スピードや発音に気をつけたりしながら話をするようになってきた。 ・話し手に注目して聞かなければいけないという意識はあるが、集中力が途切れて聞き逃していることが多く、確認が必要である。

4 本時の指導

(1) 目標

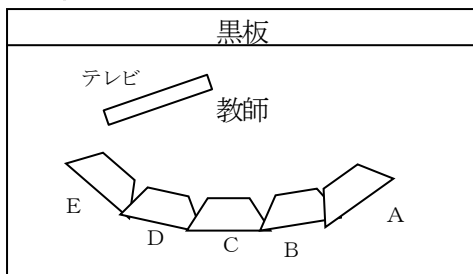
ア 全体目標

- ・相手に伝わっているかを確認しながら、相手に分かるように話することができる。
- ・話を聞いて、何が分からないのか、どうして分からないのか考えることができる。

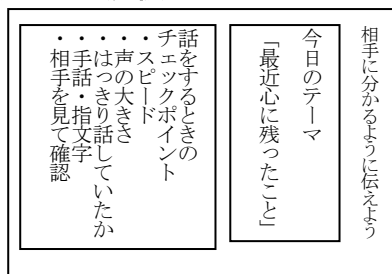
イ 個別目標

- ・手話や指文字をつけて、相手に分かるように話することができる。(A)
- ・分からなかった部分を認識し、自分は何が分からなかったのかを伝えることができる。(B, F)
- ・自分は何が分からなかったのか、その原因やどうすればよかったのかを考えることができる。(C, D)

配置図



板書計画 (黒板)



(2) 展開

時間	学習内容・活動	支援と評価
5(分)	1 前時までの活動を思い出しなが、今日行う活動を 確認する。	・前時に記入したワークシートを見ることで、活動内容やそこで学んだことを思い出せるようにする。
5	2 話をするときのチェック ポイントを確認する。	・今日は誰が話をするのか、話のテーマは何かを口頭で確認する。 ・話をするときのチェックポイントを、黒板に1つずつ掲示することで、確認できるようにする。 ・教室に掲示してある「話を聞くときのマナー」を読ませることで、マナーを守って話を聞けるよう促す。 ・本日分のワークシートを配付する。
8	3 Aが話を する。 (2分以内) A以外の人は話を聞く。 話の終了後、ワークシート に記入する。 Aもタブレット端末で自分 の話の様子を見て、ワーク シートのチェックポイント の部分に記入する。	・Aが話をしているとき、教師はタブレット端末で撮影を行う。ただし、児童からの要請があった場合や話が長い場合は、必要な支援を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">・相手に分かるように、話をすることができたか。(A, 発言)</div> ・ワークシートの記入が難しい場合は個別に支援する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">・何が分からなかったのか記入することができたか。 (B・E, ワークシート) ・何が分からなかったのか、その原因や改善方法を記入することができたか。 (C・D, ワークシート)</div> ・話をしてよかった点をAに伝え称賛することで、次の活動に前向きに参加できるようにする。
15	4 お互いのワークシートを 見合いながら、よかった点と 直した方がよい点を確認す る。	・タブレット端末にそれぞれのワークシートを撮影し、テレビに映すことで、全員が共通理解できるようにする。 ・必要に応じて、話をしている様子をもう一度テレビで見ることで、分からなかった部分についてどうして分からなかったのか、どうすればよかったのかを、考えることができるようにする。
10	5 話に対して感想を發表し たり質問をしたりする。	・やりとりが成立していないときには、何と言ったかを確認し合うよう促すことで、適切にやりとりができるようにする。 ・テーマに沿った質問ができた場合には称賛し、今回Aが伝えたかったことが何だったかを意識できるようにする。
2	6 本時のまとめと次時の学 習内容を知る。	・話をするときのチェックポイントをもう一度振り返ることで、話を するときに気をつけることを再確認できるようにする。